

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒

岩櫃山ー「真田丸」ブームに惹かれてー



古谷集落から仰ぐ岩櫃山

5月初旬、大河ドラマ「真田丸」のブームに惹かれて岩櫃山(803m)に登った。真田一族の本拠、岩櫃山は、200mに及ぶ絶壁と険しい岩峰が聳え立つ堂々としたその山容が、人を魅了する。

今回は、密岩口から登り平沢口に下りる計画で、吾妻線郷原駅に降り立ったのが朝8時半。数組の団体登山客が屯しているが、この人達に先行されたらクサリ場の順番待ちが大変と思い、一人先を急いだ。

9時、水道タンクのある密岩登山口を過ぎると杉林の中の急登が始まる。最初から次々とクサリやハシゴが現れる。大汗をかいてやっと9時半、鞍部に到着し一息入れた。ここからスリルのある岩稜伝いになる。随所にクサリがあり、中には腕力のみでクサリにすぎる一枚岩もある。途中、岩櫃山名物の天狗の架け橋を通過した。長さは7~8mだが、



東岩峰からの岩櫃山本峰

最後の1mが幅20~30cmの平均台の上を通過する感じで、身の毛がよだった。

その後もクサリ場が連続し、鷹ノ巣遺跡を通過し、大

岩の穴を潜り抜け、更にクサリやハシゴを登り、鉄柵沿いに下りて回りこむと、岩櫃山本峰の肩部だった。

ここから山頂へは、5~6mのクサリと、続く2~3mのハシゴ登りがあり、既に5~6人が順番を待っていた。10時、順番を待ってようやく着いた山頂は、1坪もないような広場に10数名がひしめいている。ゆっくり眺望を楽し

む余裕もない。かといって下りるにもまた、ハシゴとクサリの順番待ちである。

何とか肩部に戻ったのが10時半。次いで人のひしめく東岩峰をクサリの順番を待って越え、ようやく平沢口コースに向かった。鉄柵やクサリを伝い、天狗ノ蹴上岩のハシゴを下りる。後は標識に従い尾根道コースを辿り、岩櫃城本丸跡に出たのが11時10分。ここはこれまでの殺伐とした岩の世界と異なり、森閑とした歴史を感じさせる空間だった。ベンチに座り



天狗ノ蹴上岩

真田一族の夢の跡を偲びつつ昼食休憩をとった。11時45分、平沢登山口

に下り、後は車道をテクテク歩いて12時半、お目当ての岩櫃城温泉「くつろぎの館」に辿り着き、一日の汗を流した。



本丸跡